



《東京美術学校の同級生》左前列から井上清一、杉江春男、萬鉄五郎、堤竜雄、清原重一、御厨純一、片田徳郎、佐藤哲三郎、栗原忠式、後列左から、高藤知雄、大江久二太郎、大塚崇、三国久、神津善人、工藤三郎、北島漢一、山下鉄之輔

萬鉄五郎記念美術館 企画展覧会

萬鉄五郎 私の履歴書

2022年
4月23日 [土] — 7月3日 [日]

《主催/会場》
萬鉄五郎記念美術館

《開館時間》
8時30分～17時まで
(入館は16時30分まで)

《休館日》
月曜日 (月曜が祝日の場合はその翌日)

《後援》
岩手日報社、岩手日日新聞社、盛岡タイムス社、河北新報社、朝日新聞盛岡総局、読売新聞盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、産経新聞盛岡支局、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、ラヂオ・もりおか、奥州エフエム、花巻ケーブルテレビ、えふえむ花巻

※ 展覧会及びイベントのスケジュール・内容は都合により変更、および中止する場合がございます。
ホームページをご確認ください。 <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/yorozutetsugoro/1002101.html>

萬鉄五郎記念美術館 岩手県花巻市東町上沢 5-135 〒028-0114
TEL. 0198-42-4402 FAX. 0198-42-4405

さかのぼって考えるのに
面白かったのは、美術学校の五年間であった。
この五年間だけがぼっかり陽があたっている
というような感じである。

〔萬鉄五郎「私の履歴書」 中央美術 大正十四年十一月号〕

萬鉄五郎

私の履歴書

明治末から昭和の初めにかけ日本近代絵画の最前線に立ち、独自の表現性を求め続けた萬鉄五郎。彼は晩年、自らの画業と半生を振り返りいくつかの回想文を残しています。

「私の履歴書」(『中央美術』大正14年11月号)では、美術学校時代について「さかのぼって考えるのに面白かったのは、美術学校の五年間であった。この五年間だけがぼっかり陽があたっているというような感じである」と語り、画友や最愛の夫人との出会いなど充実した学生生活にあって、新たな挑戦を開始します。1912(明治45)年の卒業制作には「ゴッホやマチスの感化のある」《裸体美人》(東京国立近代美術館)を発表し、西洋の新しい美術思潮に共鳴しながら、独自表現を追求した成果を世に問います。

一方、「水彩画と自分」(『みづゑ』大正12年10月号)では、少年期に大下藤次郎著『水彩画之葉』で学んだ経験に加え、1919(大正8)年に茅ヶ崎に移り住んだ後再び水彩画に興味を持って取り組んだことが記されています。その時期の水彩画からは、巧みな色彩感覚と南画研究の成果が融合した萬ならではの水彩表現が見て取れます。

本展覧会では、美術雑誌に掲載された萬の回想録をもとに、作品や当時の写真資料を交えながら、画家・萬鉄五郎の生涯を見つめなおし、彼の歩みを辿ります。

二三年前からまた水彩画に興味を持ち始めて復活されてきた。今どんな時に水彩画をかくかと言えれば油絵に疲れた時が一番よい。大いそぎで絵をまどめてみたいような時なども油絵よりよほど便利な事があると思う。それから鮮やかな色を軽く出す時は油絵具よりもしばしば都合がよい事がある。今後ただ余技的ななどという意味でなく水彩の材料をよく生かしたもつとつこんだ製作をしてみたいと考えている。(1)

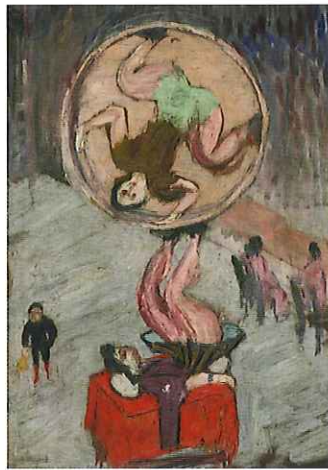


1 《風景(木立風景)》1904(明治37)年頃 水彩・紙
2 《軽業師》1912(大正元)年頃 油彩・板
3 《夜の雪》1916(大正5)年頃 油彩・板
4 《帰り道》1923(大正12)年頃 紙本墨画
5 《曇天砂丘》1923(大正12)年 水彩・鉛筆・紙

(1) 萬鉄五郎「水彩画と自分」(『みづゑ』大正12年10月号)
(2) 萬鉄五郎「私の履歴書」(『中央美術』大正14年11月号)



浅草に通つてるうちにロートレックまがいのものを描き始め浅草の魔女や玉乗などを画題にした事がちよつと続いた。(2)



こんな事で段々制作にうえる事になったので三年の九月には郷里に帰っていた。この時は随分勉強した。何も見も聞きもしない。秋から冬、春から夏という風にごんどん描いたものである。(2)



八年には相州に住むようになり、十年頃から日本画特に南画に興味を持つようになり、自分の好きな人としては大雅堂の外浦上玉堂、仲山高陽、彭百川、岡野右圃、桑山玉州などのある事を知ることになった。(2)

第42回萬鉄五郎祭

● 萬鉄五郎祭式典

《日時》5月3日(火・祝) 14時~14時30分
《会場》土沢幼稚園 講堂

● 写生作品募集

《申込期間》4月16日(土)~5月1日(日)
《参加費》500円(幼児から一般まで)

参加者には作品をプリントしたエコバックを差し上げます。お申込み・お問合せは萬鉄五郎記念美術館まで。

● 写生作品展示会

《日時》5月12日(木)~5月29日(日)
《会場》花巻市立東和図書館ロビー(花巻市東和町安積6-90)

iwate コンテンポラリーアート vol.11-1

門馬 経 臣 窯+窯 展

《会期》4月23日(土)~7月3日(日)
《開館時間》9時~16時30分
《休館日》月曜日(月曜が祝日の場合はその翌日)
《会場》萬鉄五郎記念美術館「八丁土蔵ギャラリー」
《入館料》入場無料

土沢アートクラフトフェア 2022 春

《日時》5月3日(火・祝) / 4日(水・祝) 10時~16時
《場所》土沢商店街 & 萬鉄五郎記念美術館前



岩手県花巻市東和町土沢 5-135 TEL.0198-42-4402・Fax.0198-42-4405

萬鉄五郎記念美術館